

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173600420		
法人名	社会医療法人 延山会		
事業所名	グループホームCoCoすみかわ		
所在地	北海道苫小牧市澄川町7丁目6番15号		
自己評価作成日	令和元年11月1日	評価結果市町村受理日	令和2年2月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosyoCd=0173600420-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町5丁目2-35コーポラスひかり106号
訪問調査日	令和元年12月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居定員が6名ということもあり、家庭的な雰囲気の中で介護理念である「その人らしくほのぼのと」をモットーに安心して穏やかに楽しい生活を送っていただく事ができるよう、入居者の状況変化を把握し、様々な可能性を考慮し試行錯誤しながら入居者本位の対応を心掛けている。管理者は医師で協力病院が併設しており、毎週3回の看護師の訪問のほか日常的に健康面に関する相談が出来る体制にあり、健康管理において安心感を持っていただいている。入居者の身体機能の維持については、併設病院の理学療法士、食事の嚥下状態については歯科医師による評価のほか、定期的な訪問による口腔ケアについてのアドバイスをいただいている。また、食事形態や栄養についても栄養士に相談できるなど、医療はもとより、その他の職種と連携したサポートが可能な体制になっている。活動面では、併設の老人保健施設のサークル活動や行事への参加も可能で、入居者の活動に選択の幅があり、定期的に季節感のある行事を計画し、ご家族と協力して外出の機会作りに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は道央自動車道苫小牧西ICから車で5分、JR糸井駅から車で5分の閑静な住宅地に位置し、近くには公園、コンビニなどがあり生活環境に恵まれている。また、隣接して同法人が運営する病院、老人保健施設、居宅介護支援事業所があり、法人合同の委員会(身体拘束廃止委員会など)を開催するなど事例を共有して質の向上に努めている。施設長(管理者)は医師で併設病院と綿密な連携により利用者、家族の安心に繋がっている。建物は木造平屋造りで6人定員のこじんまりとした家庭的な雰囲気、居間・食堂は一体的で、天窓から柔らかな光が入り明るく、利用者は、ベランダから畑の花や作物を眺めたり、歌謡曲などを聞いたり、会話をしながら思い思いに過ごしている。また、近くの公園へ散歩に行ったり、スーパーへの買い物や町内会の夏祭りなどで地域住民と交流し、町内会に広報誌(CoCoすみかわ便り)を回覧して理解と協力に繋げている。避難訓練では町内会の交通防災部からも参加し、町内との支援体制が築かれている。職員は、介護経験も長く笑顔で家庭的な雰囲気を大切に、その人らしくほのぼのと穏やかに楽しい生活の支援、心と心のふれあいを大切にその人の身になって考えられる支援、尊厳のあるあたりまえの生活の支援、を介護理念として支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の基本理念と基本方針を掲示し、ケアに迷った時には理念に立ち返り介護実践に活かしている。	基本理念と基本方針に基づいた介護理念を事業所内に掲示している。管理者・職員は、理念とケア理念を共有して利用者のサービス向上に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に加入しており、法人や町内会の祭りでは子供神輿がホーム前まで来てくれたり、コミセン祭りに参加したりと相互協力の体制が取れている。火災訓練では近隣の住民のほか、町内会の防災部の協力を得ながら実施している。	町内会に加入し、町内会の祭りで子供みこしが事業所前に来たりする等、地域と交流を深めている。看護専門学生の実習を受け入れたり、避難訓練に町内会の協力を得て実施する等地域と密接な関係を築いている。「すみかわ便り」は、年2回発行し町内会に配布して事業所の理解と協力を繋げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的に回覧板等でCoCoすみかわ便り(広報誌)を発行し、ホームの活動や認知症に関する情報を発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの近況や取り組みを報告するほか、防災や事故、苦情等について検討している。委員から出た意見を現場にフィードバックするよう努めている。	年6回開催し、市介護福祉課、町内会長、民生委員、家族、地域包括支援センター、協力医療機関、老健施設など多くの関係者が参加して、現況報告、行事予定等を報告し、活発な意見交換がなされ、意見や助言をサービス向上に活かしている。11月にイオンで開催された「笑顔の写真展」にも参加している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や苫小牧グループホーム連絡会の管理者研修で指導を受けたり情報交換の機会がある。日常的に連携し、相談にのってもらえる関係ができています。	苫小牧グループホーム連絡会の管理者リーダー研修に毎年市が参加したり、苫小牧西地域包括支援センターとの交流を深めている。また社会福祉協議会のいきいきポイント事業に参加してボランティアの受け入れ体制を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人には身体拘束廃止委員会や抑制廃止委員会が設置され、日々のケアについて振り返ることができる。また、法人・ホーム内での研修も定期的に行われ勉強できる機会を設けている。	法人に身体拘束廃止委員会を設置し、内部研修を定期的に行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修や勉強会を通して知識習得に努めている。昨年は、スピーチロックや虐待に関する事例検討会を実施した。		

グループホームCoCoすみかわ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在制度を利用されている入居者はいないが、必要に応じ対応は可能である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書や契約書を用いて細かく説明している。改定があった際には、家族会や個別で説明を行うほか文書で同意していただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会で意見を伺っている。家族の意向ノートを作成し、日々の会話の中で要望を反映できるように努めている。	法人の4事業の総合相談窓口として総合相談センターを設置し専門の相談員を配置して様々な相談を受け付けている。また、運営推進会議での利用者・家族の意見・要望や年3回の家族会で何気ない会話から入浴や食事、水分摂取等の提案を事業所運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	次年度の年間活動計画を作成する時、月次のスタッフ会議で職員の意見や要望を聞いている。	人事考課制度を取り入れる他、月1回の職員会議で意見や提案を聞いて検討している。さらに、併設事業所を含めた役職員の参加する運営会議や戦略会議でも提案する機会が設けられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回人事考課面接を行い、スタッフが目標を持って就業できるようにしている。また、毎月スタッフの休日希望を聞き、シフト調整を行うことで働きやすい環境に留意している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や法人内研修、ホーム内研修に参加する機会を設定している。個々の介護技術や知識にばらつきがあることが課題である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北海道認知症グループホーム協会日胆支部が主催する事例発表大会にスタッフを参加させたり、苫小牧グループホーム連絡会の研修を通じ、他グループホームスタッフとの意見交流等を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人を訪問し不安を聞いたり、ホームを見学していただく等の機会を作り入居への不安を軽減することができるよう努めている。実際にホームに来ていただく等、事前に関係づくりに留意している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回の相談時にホームの見学やご家族が不安に思っていることを伺い、スムーズにサービスを提供できるようにしている。また、明るく笑顔で対応することに気を付け、話しやすい雰囲気に対応するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回の相談時に詳しくお話を伺い、グループホームや他施設の紹介等、総合的に判断して相談に応じている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者との会話や動作を見て出来る事の見極めを行い、自らが行動できるような働きかけを意識的に行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時に入居者の様子を伝え、ホームで困っていることやケア方針について伝え、情報を共有することができるようにしている。ご家族の中には毎日来訪してくださる方もおり、共に支え合いながら支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日々の散歩や地域の行事に参加することで挨拶や言葉を交わす機会づくりをしている。また以前にいた併設老健施設の方とお話をするのを楽しみにされている方もおり、今後も交流を継続していきたい。	法人の老健施設の利用者との交流や地域の夏祭りや地域住民と挨拶や言葉を交わしたり、訪問美容師との交流を深める等、馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の身体状況や認知症状に合わせてながら対応している。ホールでは、一緒に歌謡曲や演歌を聞き会話を楽しんでいる様子も見受けられる。状況に合わせて、職員が間に入り上手に関わりを持つことができるよう努めている。		

グループホームCoCoすみかわ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームでのサービスが終了しても併設病院にいらっしゃる方もおり、継続的なフォローができています。ご家族にも気軽に立ち寄っていただくよう声がけをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や関わりの中で、思いや希望、食べたい物などのアセスメントを行い希望に添うことができるように努めている。	日常生活から、思いや意向を把握して、申し送りノートやセンター方式のアセスメントシートに記入し、職員全員で情報を共有している。困難な場合は表情・顔つき・仕草や家族の情報で把握した利用者の思いや意向を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の病院や施設から情報を得るようにしている。また入居時にはセンター方式のシートを活用して細やかな情報を把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子や言動をアセスメントシートに記入することで現状を把握できるようにしている。申し送りやノート、スタッフ会議等で情報を共有できるように努めているが、伝達しきれない場合もあった。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時等でご家族の意向を確認しながらサービス計画書を作成している。定期的に評価、見直しを行うことで現状に即した計画を立案している。	1か月毎に利用者の健康状況とモニタリングを行い、利用者、家族の意向を反映させ、医師・看護師の意見を取り入れ、会議で意見交換して3か月毎に介護計画を作成し、利用者・家族に説明して同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活アセスメントシートには日々の生活の様子その他、特に変化が見られた場合は赤や青で色を変えて記入している。各スタッフの工夫や配慮等を記入し、情報を共有することで入居者へのケアに活かしていきたい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の必要性に応じ、併設病院の理学療法士や栄養士、歯科衛生士に相談が可能。グループホームで出来る事を念頭に支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の夏祭りやコミセン祭りの行事に参加することで楽しむ機会を作っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は管理者を兼務している。専門医への受診が必要な場合は、他の医療機関へ受診していただく等、適切な医療を提供できる体制にある。また、受診や往診の結果については、ご家族へ伝達し不安や疑問が少なくなるように努めている。	利用者と家族が希望するかかりつけ医受診の継続を支援しているが、利用者と家族に同意を得て協力医の往診を受けている。母体病院は24時間体制で、安心な医療体制が整っている。	

グループホームCoCoすみかわ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週3回以上、併設病院から看護師の定期的訪問があり、日々の変化や医療的なケアの相談をすることができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームでの生活の様子等の情報を提供することで入院負担が少なくなるようにしている。入院後も定期的に訪問し、病状の変化を医師、ご家族や医療ソーシャルワーカー等と連携し退院時期について検討している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時に重度化した場合の対応や看取りに関する指針を説明している。実際に重篤化した場合は、ホームで行うことができること、できないことを説明し、本人・ご家族の意向を確認し主治医と連携して方針を決定している。	夜間体制が整った併設病院があり、重度化した場合の指針に基づき利用者・家族に説明し同意を得ている。昨年末に看取り実例があり、利用者や家族の意向があれば対応できる体制がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの使用方法、心臓マッサージの方法についての研修を受けスキルアップを図っている。また併設病院との協力体制も構築されている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練には近隣住民のほか、町内会の交通防災部の方にも参加していただいている。訓練を繰り返すことでマニュアルを整備・変更したり、誘導方法も少しずつ改善し身についてきている。	年2回、6月に昼間の地震・津波想定、9月に夜間の火災想定で町内会交通防災部との協力で避難訓練を実施している。母体病院や地域住民も参加しながら迅速な対応が出来る。連絡網や災害マニュアルも整備されている。	災害対策全般に連絡網、マニュアル、停電対応、備蓄等法人共同での対応が出来ているが、事業所としての備蓄品の見直し・点検を実施し、必要な備蓄品および備品の補充する事を期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修会や勉強会を通し声かけや対応方法についての知識を習得し、「気づき」を持ち入居者へ還元することができるように実践している。	人生の先輩である利用者への尊厳や権利を損なうことなく、その人らしい生き方を目指し、接遇方法の研修や勉強を積み、気づきに配慮しながら利用者のプライバシー尊重に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	些細なことでも自己決定できるような声かけを意識している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人一人の思いを大切にしながら支援している。自己決定が難しい方も多く、声かけや働きかけがないと動くことが出来ない方もいるため、顔きや反応を見ながらケアを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を選んでいただいたり、家族の希望に添った形で支援している。化粧道具等、本人が使いやすいように準備したり、使いやすいものに変更したりする工夫も行っている。		

グループホームCoCoすみかわ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好に合わせてメニュー作りに生かしている。食器洗いや下膳等、入居者の能力に合わせて行っていただいている。	昼食のみ病院の栄養士が管理した食材で、朝・夕食は事業所独自で食材を用意し、利用者と共に盛り付けや片付け等を行い、職員の見守りで静かに食事している。誕生会や敬老会等の行事食や外食して食事を楽しむ支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量はアセスメントシートに記入し確認するようにしている。好みに応じてメニューを変更したり、刻み食・ミキサー食等、食事形態や調理方法を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月1回歯科衛生士に相談することができる。毎食後口腔ケアを行っているが、声かけや介助の方法にばらつきがある場面がある。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者に合わせ、トイレ誘導のタイミングや方法、パットの種類を変更しながら対応を行っている。	チェック表でそれぞれの排泄パターンを把握し、仕草や動きなどから声かけでトイレへの誘導を行い、自立排泄の支援に努めている。失敗時にも利用者の尊厳と羞恥心に配慮した対応を実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルトを提供し、献立も食物繊維の多い食材を使う等工夫している。アセスメントシートで食事・水分摂取量を把握し確認する他、運動する機会を持っていただいている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な曜日設定をさせていただいているが、体調や入浴拒否等、また希望に合わせて柔軟に対応を行うようにしている。	週2～3回で午後入浴が基本で、利用者の状況によって随時対応している。入浴剤も利用者の状況によって使い分けしながら楽しい入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午後からのお昼寝が日課となっている方もおり、その時々入眠状況やご本人の様子を伺いながら休息する機会を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の変更があった場合は、処方箋や通院記録にて確認し、不安がある場合は看護師や薬剤師に相談するようにしている。また、服薬時は声出し確認をすることで誤薬に気を付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の身体状況に合わせて食器洗いや洗濯、掃除等に取り組んでいただいている。日々の生活の中で出来る事はないかを常日頃から考えながら支援する必要がある。		

グループホームCoCoすみかわ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に家族と一緒に外出したり、楽しんだり出来る行事を立案している。また、ホーム前の庭いじりや近所の公園に散歩に行ったりすることができる。	公園への散歩やスーパーへ出かけている。通院の途中で桜見物をしたり、苫小牧市サンガーデンや外食、四季舎の森に出かけたり、家族と一緒に外出する等支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを自己管理している方もいる。その他の入居者は、買い物外出の金銭を用意し支払いを行っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホーム内に公衆電話を設置しており希望に応じ対応することができる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	西側に大きくベランダがあり、畑の花や作物を楽しむことができる。また、屋外が見渡しやすいため天候の変化を教えてくれる入居者もいる。壁面や棚に季節の物を飾り付け、季節感を感じながら過ごすことができる空間作りをしている。	中心部の共用室の天井が高く天窓もあり、ベランダの窓も大きく採光も明るく開放的な雰囲気が感じられる。季節のクリスマスツリーを飾り、壁には行事の写真や手造り作品を飾り家庭的な雰囲気で、利用者は花壇や菜園を眺めたり会話などしながら思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関前に椅子を置き、庭や畑が見える場所にはソファを設置し思い思いの場所で寛いでいただけるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には入居者が家庭で使用していた家具を持ち込んでいただいたり、自分で制作した飾り、家族との写真等を掲示することで今までの馴染みの暮らしが継続できるように支援している。	洗面台とクローゼットが備え付けられ、これまでの生活で使用した馴染みの家具や道具・備品を持ち込み、壁には家族や思い出の写真と飾り物を貼り付けて、居心地の良い場所としての工夫が行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーとなっており、各所に手摺りを設置している。トイレや居室の案内をさりげなく表示することで、出来ることや分かることを日常生活の中で見出し、一人ひとりが楽しく自立した生活を送ることができるようにしている。		